## 意見聴取、協議結果を踏まえた修正等(案)

3	頁	項	元案	修正案
「信か高い拝食養源を大量に利用できることで、ヒゲマの死亡率低下や繁雄準増加が予望される一方。その利用場所が人の活動圏に近い場合は捕獲されやすくなり、死亡率増加の可能性もある。また、知床では、エゾンカとピグマの利用可能な草本類が減少し、それ以外の拝食養頭が減少し、それ以外の拝食養頭が減少し、それ以外の拝食養頭が減少し、それ以外の拝食養頭を使した考察に留意する必要がある。と、強魔の質学業技能の個体が観察されている。ヒゲマの電かれた状況は、エゾンカをは必要も利用可能な単生態系全体を簡単した考察に留意する必要がある。   14 (13-15 行目) 第2章 2 数の調整に関する事項			-	
田できることで、レグマの死亡単低 下や繁殖単値加が予想される 方、その利用場所が入の活動圏 に近い場合は捕獲されやすぐな り、死亡率増加の可能性もある。		(3) ヒグマの生態		
カー・				用できることで、ヒグマの死亡率低
「近い場合は捕獲されやすくな				下や繁殖率増加が予想される一
14 (13-15 行目) 第2章 2 数の調整に関する事項				方、その利用場所が人の活動圏
また、知床では、エゾシカとヒグマが採食資源の草本類を巡り競像にあり、エゾシの高密度生態体にでは、森林生態系でセグマの利用可能な草本類が減少し、それ以外の採食資源量低下が重なると、極度の音楽要状態の個体が観察されている。ヒグマの置かれた状況は、エゾシカをはじめ上する響に関する事項				に近い場合は捕獲されやすくな
5				り、死亡率増加の可能性もある。
関係にあり、エゾシカの高密度生態地域では、森林生態系でヒグマの利用可能な草本類が減少し、それ以外の狭食資源量低下が重なをと、極度の貧栄養状態の個体が観察されている。ヒグマの置かれた状況は、エゾシカをはじめとする種間関係や生態系全体を俯瞰した考察に留意する必要がある。				また、知床では、エゾシカとヒグマ
息地域では、森林生態系でヒグマの利用可能な草本類が減少し、 それ以外の採食資源量低下が重なると、極度の登業養状態の個体が観察されている。ヒグマの置かれた状況は、エゾシカをは比めとする種間関係や生態系全体を検験した考察に留意する必要がある。				
0				
マールリ外の採食資源量低下が重なると、極度の貧栄養状態の個体が観察されている。とグマの置かれた状況は、エゾシカをほじめとする種間関係や生態系全体を俯瞰した考察に留意する必要がある。 こことで、総個体数を維持しつつ あつれきの抑制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
9 (41 行目) 第2章				
14 (13-15 行目) 第2章 2 数の調整に関する事項				
14 (13-15 行目) 第2章				
する種間関係や生態系全体を俯瞰した考察に留意する必要がある。				
図 (41 行目) 第2章				
3				
9 (41 行目) 第2章 2 数の調整に関する事項				
2 数の調整に関する事項	9	(A1 行日) 第2音	…ことで 総個体数を維持しつつ	
9 (42 行目) 第2章 2 数の調整に関する事項 を目的として個体数調整による新たな管理を行う。				
2 数の調整に関する事項   を目的として個体数調整による新たな管理を、あつれきを低減させるための措置に導入する。   そのため、ソーニング管理は、広域的スケールと小スケールを組み合わせて総合的に実施することとし、ソーニングに当たり、コア生息地については、広域的スケールの設定は道が、また集落レベルの小スケールの設定は前町村の協力のもと設定し、推進することとし、ソーニングに当たり、コア生息地については、広域的スケールの設定は道が、また集落レベルの小スケールの設定は市町村の協力のもと設定し、推進する。   2014年)現在における地域ごとの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9		1 1 1	
たな管理を行う。			·	
14 (13-15 行目) 第2章3 (2) ゾーニング管理は、広域的スケールと小スケールを組み合わせて総合的に実施することとし、ゾーニングに当たり、コア生息地については、広域的に、全道を対象とした広域のスケールの設定は道が、また集落レベルの小スケールの設定は市町村の協力のもと設定し、推進することから、全道を対象として設定し、また、防除地域・排除地域及び緩衝帯については、地域の土地利用等の状況に応じて出没や防除の対応を進める必要があることから、市町村を通じて設定を推進する。				
14 (13-15 行目) 第2章3 (2) ゾーニング管理の推進   そのため、ゾーニング管理は、広域的スケールと小スケールを組み合わせて総合的に実施することとし、ゾーニングに当たり、コア生息地については、広域的に連続性を確保する必要があることで、ルの小スケールの設定は前町村の協力のもと設定し、推進する。とから、全道を対象として設定し、また、防除地域・排除地域及び緩衝帯については、地域の土地利用等の状況に応じて出没や防除の対応を進める必要があることから、市町村を通じて設定を推進する。				 を <u>、あつれきを低減させるための</u>
域的スケールと小スケールを組   か合わせて総合的に実施すること   とし、全道を対象とした広域的スケールの設定は道が、また集落レ   ベルの小スケールの設定は道が、また集落レ   ベルの小スケールの設定は市町   村の協力のもと設定し、推進す  る。				措置に導入する。
小合わせて総合的に実施することとし、全道を対象とした広域的スケールの設定は道が、また集落レベルの小スケールの設定は市町村の協力のもと設定し、推進する。   いては、地域の土地利用等の状況に応じて出没や防除の対応を進める必要があることから、市町村を通じて設定を推進する。   い水準を設ける。平成 26 年 (2014 年)現在における地域ごとの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14	(13-15 行目) 第2章3		道は、ゾーニング管理の普及を推
とし、全道を対象とした広域的スケールの設定は道が、また集落レベルの小スケールの設定は道が、また集落レベルの小スケールの設定は市町村の協力のもと設定し、推進する。		(2) ゾーニング管理の推進	域的スケールと小スケールを組	進することとし、ゾーニングに当た
15         (21 行目) 第2章3(3)②         ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				-
ベルの小スケールの設定は市町 村の協力のもと設定し、推進する。				
村の協力のもと設定し、推進する。   び緩衝帯については、地域の土地利用等の状況に応じて出没や防除の対応を進める必要があることから、市町村を通じて設定を推進する。   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
利用等の状況に応じて出没や防除の対応を進める必要があることから、市町村を通じて設定を推進する。   利用等の状況に応じて出没や防除の対応を進める必要があることから、市町村を通じて設定を推進する。   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
Rの対応を進める必要があること から、市町村を通じて設定を推進 する。				
から、市町村を通じて設定を推進する。   から、市町村を通じて設定を推進する。   15 (21 行目) 第2章3(3)②   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			<u> තං</u>	
15				
15				
ア指数管理における個体数水準の考え方         (2014年)現在における地域ごとの地域ごとの地域ごとの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15	(21 行目) 第2章3(3)②		
#の考え方 の… 点の地域ごとの… 点の地域ごとの… 点の地域ごとの… なお、個体数水準によって、予防 なお、推定個体数(中央値)は地 水準指数及び許容下限水準指数 域個体群ごとに異なることから、こ の数値は地域ごとに異なり、地域 ごとに個体数の動向をモニタリング・・・ 切った準の動向をモニタリング・・・ 現行水準の動向をモニタリング・・・ 現行水準の動向をモニタリング・・・ 現行水準の動向をモニタリング・・・ 現行水準の動向をモニタリング・・・ 現行水準の動向をモニタリング・・・ 現行水準の動向をモニタリング・・・ ス・カー・ 日の (10 行目) 第2章3(3)② 果、現時点から10年後の令和13 中、10年経過後 の令和13年(2031年)時点における・・・ の令和13年(2031年)時点にお				
16 (3-4 行目) 第2章3(3)②		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		
ア 指数管理における個体数水 準の考え方         水準指数及び許容下限水準指数 の数値は地域ごとに異なり、地域 ごとに個体数の動向をモニタリン グ・・・         域個体群ごとに異なることから、こ れらを指数(現行水準)に置き換 えたうえで、地域個体群ごとに予 防水準、許容下限水準を算出し、 現行水準の動向をモニタリング・・・           16 (10 行目) 第2章3(3)② イ 地域別の捕獲上限数の設定         果、現時点から10年後の令和13 年(2031年)時点における・・・         果、今和2年末から10年経過後 の令和13年(2031年)時点にお	16			
準の考え方				
グ…防水準、許容下限水準を算出し、 現行水準の動向をモニタリング…16 (10 行目) 第2章3(3)②果、現時点から10年後の令和13果、令和2年末から10年経過後 の令和13年(2031年)時点における…		準の考え方	の数値は地域ごとに異なり、地域	れらを指数(現行水準)に置き換
現行水準の動向をモニタリング…   現行水準の動向をモニタリング…   16 (10 行目) 第2章3(3)②			ごとに個体数の動向をモニタリン	えたうえで、地域個体群ごとに予
16(10 行目) 第2章3(3)②果、現時点から10年後の令和13果、令和2年末から10年経過後 の令和13年(2031年)時点における…			グ・・・	防水準、許容下限水準を算出し、
イ 地域別の捕獲上限数の設定 年(2031 年)時点における… の令和 13 年(2031 年)時点にお				現行水準の動向をモニタリング…
	16			
ける…		イ 地域別の捕獲上限数の設定	年(2031年)時点における…	
				ける・・・

		T	T
頁	項	元案	修正案
17	(33 行目) 第2章3(3)③ア	指数が <u>予防水準</u> を下回った場合	共存水準の数値は幅があることに
	(ウ)捕獲目標	は…	留意しつつ、指数が共存水準を下
			回った場合は…
18	(24 行目) 第3章3	…課題となっている。	…課題となって <u>おり、専門知識や</u>
	(5) ヒグマ管理に係る専門人材		技術を有する民間事業者の協力
	の育成・確保		<u>を受けている事例も見られる</u> 。
18	(28 行目) 第3章3(5)①	…強化を目指す。	…強化を目指す。 また、市町村の
	ア 専門的な知見を有する職員		要請に応じ、ヒグマ出没時に対応
	の育成・確保		できる知識や技術を有する専門
			家や事業者を派遣し、現場の支
			援を行う。
20	(14 行目) 第3章	…連携を取りながら進める。	…連携を取りながら進めるととも
	2 モニタリング等の調査研究		に、得られた結果などの情報共有
			<u>を図る。</u>
21	(28 行目) 第3章3	…情報把握に努め、連携して推	…把握に努めるとともに、地域管
	(4) 知床半島ヒグマ管理計画な	進する。	理計画等に基づく当該計画との連
	ど地域管理計画との連携		携の希望があれば、関係する市
			町村等に対し積極的な支援を行
			い、目標達成のための方策を連
			携して推進する。